

ぶんかざいまるちなび

No.40

文化財 知 ナビ

このニュースレターは、「文化財に親しむ機会の提供に関する事業」の一つとして、身近な文化財情報をはじめ、文化財を活用した事業などの紹介を行っています。
ぜひ学校教育や生涯学習の場で広くご活用ください。

文化財を^{まも}守っていきましょう！

文化財になるような古い建物は、長い間地震や雨や風に耐えて残ってきたのだから大丈夫、壊れないと思っていませんか？

しかし、すべての古い建物が地震等に強いわけではありません。地震で一度壊れると元に戻すのが難しい建物もたくさんあり、崩れて周りの人がケガをしてしまうこともあります。

《耐震対策で建物を丈夫に！》

そこで、地震等で大切な文化財が被害に遭わないように、耐震対策（地震に備える補強等）をする必要があります。

文化財である建造物に耐震補強をする場合は、地震等への強さだけではなく、文化財としての価値がなくならないようにしなくてはなりません。

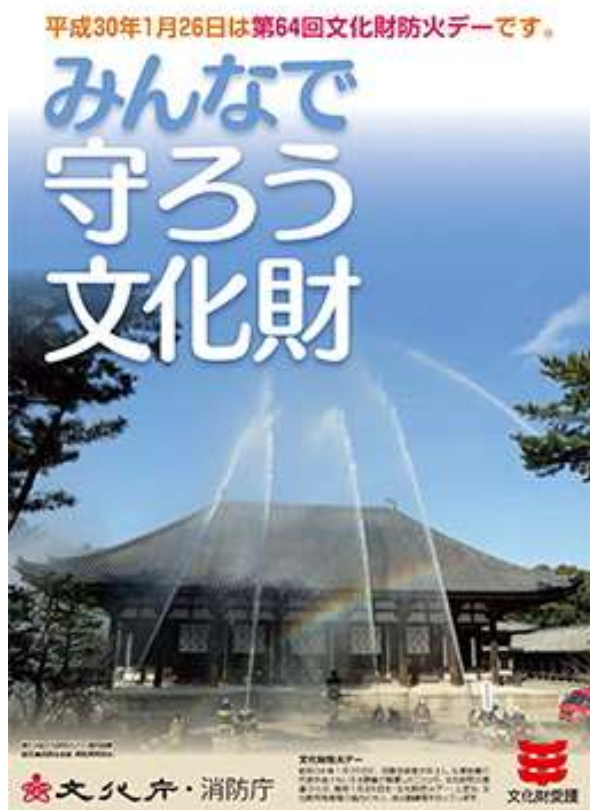
表から見えない隠れた部分に補強したり
目立たない形や色にデザインする工夫をしたりしています。

《火事にも備えます！》

火事等で建物等の文化財が被害を受けないように、防火や防犯への対策も大切です。

消火栓等の防火設備を設置したり、災害が起ることを予想して、避難計画を立てたり避難訓練をする必要があります。

そこで、国は毎年1月26日を「文化財防火デー」に定め、文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、全国各地で文化財防災運動を行い、文化財愛護への関心を高めるようにしています。



第64回文化財防火デーポスター

耐震対策・防災対策の例

《耐震対策をしています》

文化財建造物の耐震対策では、まず建物の「耐震診断」を行います。耐震診断とは、建物が建っている場所（地盤）や、建物の柱・壁などが地震にどのくらい強いかを調べるものです。

耐震診断の結果、柱・壁などが地震に弱いと分かった場合は、建物の耐震補強を行います。また、危険な時には建物に人が近づかないよう制限をすることもあります。



左の写真は、函館ハリストス正教会復活聖堂（重要文化財、函館市）で行われた耐震診断の様子です。

レンガの壁を丸くくり抜いて、壁の一部（試験体）を取り出し、その試験体に機械で強い力をかけて強さを測ります。

右の写真は、旧旭川偕行社（重要文化財、旭川市）で行った耐震補強の様子です。

建物の内側にある木の柱のつなぎ目に、金属の板のような部品を打ち付けて補強しています。

こうして弱い部分をしっかり補強することで、昔からある貴重な建物を地震に強くすることができます。



《防災対策も大切です》

網走市にある、博物館 網走監獄では、重要文化財「旧網走監獄」で、文化財防火デーにあわせて、防災訓練を行っています。



今年1月に実施された防災訓練では、1) 火災を発見、2) 消防署に通報、3) 見学者の避難誘導、4) 初期消火、の順番を確かめながら訓練を行いました。

また、自衛消防隊（博物館の職員たち）と網走地区消防組合・網走消防団による合同の放水訓練も行いました。

みんなが協力して、いざという時に備えています。